

# 創学舎ニュース

Sougakusha News

## No317

よりのみへ生きぬきの「きっかけ」として、新しい場が与えられました。生かすも殺すも、あなた次第です。  
(柳 善一)

学校を卒業してからの人生の方が長いことを忘れずに。戻ることのできない貴重な学生時代を有意義なものにしてください。  
(五日市 浩)

また一つ成長するためのきっかけができる時期。新しい目標、新しい環境など一つ一つのことを大切に毎日チャレンジしていける一年にしましょう。  
(小林 英一)

慣れ親しんだ環境から離れ、期待と不安があると思えます。でも一年間でみなさんはぐんと成長しているから大丈夫。応援しています。  
(岡本 武)

受験で大切なのは困難に挫けず前に進んでいく強い意志を持つこと。我々も最大限のサポートをします。合格に向かって一緒に頑張りましょう。  
(高橋 力)

個人の能力に多少の差はあるが、大したことではない。適切な方法でやり続ければ必ず伸びる。きみはどつする?  
(小林 健輔)

楽しかったり、つらかったりするから人生は面白い。ひとつやふたつの失敗なんくるないさ。  
(関 健吾)

夢を持つ。大きくても構わない。そして、日々よく学び、よく遊び、充実した時を過ごそう。その積み重ねが夢を実現させる。自分の力を信じて前進しよう。  
(大場 健司)

私たちは、みなさんの悩みをなくしてあげることなんて出来ないけれど、一緒に悩んであげることなら出来る。そして、横には同じ悩みを持った仲間もいるよ。  
(瀬野 武士)

この世には絶対に成功するコツが一つだけある。それは「成功するまでやめないこと」である。  
(村田 寛之)

すでに新しい生活に慣れてきた頃だろう。大きくても小さくてもいい、ゴールデンウィーク前にひとつ目標を立てようぜ。  
(松永 弘文)

生徒のみなさんの今の気持ちは不安五十%、ワクワク五十%といったところでしょうか。これが保護者では不安が八十%、九十%くらいになっていきます。このことを理解して、保護者の不安の%を下げてあげることが皆さんの新しいミッションの一つでもあります。部活にバイト(高校生以上!)といった楽しいことも多くなってきましたが、学業も忘れずに取り組んでくれると安心できるかな。ひとつ頼みますね。  
(山崎 将之)

山高み 雲居に見ゆる 桜花  
心のゆきて 折らぬ日ぞなき  
凡河内 躬恒の歌より  
(鮎澤 崇嗣)

入学、進級おめでとうございます。新しい人との出会いを大切に、自分の可能性を広げていってください。  
(村上 静馬)

新しい一年が始まります。今年一年、何を頑張るか? どう頑張るか? 目標をしっかりと立て、少しずつ成長していこう!  
(長坂 浩之)

# 進学・進級おめでとう!

「勉強」をしろ。そして「勉強」の本質を知れ。「勉強」とは、字の如く「勉めて強くなる」ということ。「しんどい、つらい」負けそうな自分に打ち克つということ。それをやり通した人だけにその向こうに見えてくるものが必ずある。自分を信じてやり通せ!  
(上 静恵)

進級進学……新しい一歩を踏み出すみなさん。春は「新しい日々」というイメージがありますね。しかし、毎日が新しい日だと感じることができたら、一年間で大きく前進することが出来ます。一緒に前進してゆきましょう。  
(高橋 麻衣子)

入学、進級おめでとうございます。君たちひとりひとりの素敵な未来が待っています。自分に無理なものと思われないものでも、自分の心ではほしいと認められるものを一心に追い求めてみよう。きっと何か自分の欲しかった答えが見つかると思います。さあ、この瞬間から一歩目を踏み出してみよう。ほんの些細な勇気と前進が君を変えるはずですよ。  
(松尾 裕史)

たとえ小さな歩みでも毎日続けていこう。昨日の自分よりも成長している自分ではないか? 「平凡なことでもくりかえすと非凡になれる!」  
(小池 寿幸)

みなさんにとって実りのある時間が過ごせるように全力でサポートします。  
(上野 真宏)

想像してごらん。成績が上がった自分。志望校に合格した自分。嬉しいのは自分だけではないはず。みんなの頑張りのおかげで多くの人を幸せにする素敵な力があるよ。  
(櫻村 公太)

物事の初めというのは、不安があると思います。しかし、何か新しいことに挑戦するための、またとない機会でもあります。動かなければ、新たな成功は絶対に手に入りません。勇気を奮い立たせてみましょう。  
(由比 達也)

今までと変わらず、小さな努力を積み重ねてください。そうすれば、また成長しているはずですよ。一年後に振り返った成長を実感できるように、お互い切磋琢磨しましょう。  
(高野 陽介)

進級おめでとう! 中学時代は部活と勉強だけの毎日! なんて決めつけずに様々なことにチャレンジしてくださいね。  
(新島 景子)

新入生の皆さん、進学おめでとうございませう。今までの仲間や、環境に囲まれて、不安な人や、困っている人も多いのではないのでしょうか? しかし、そこを乗り越えることで、得られる、新たな体験や、仲間は、とても大切なものになります。一人でも多くの仲間に出会い、一つでも新しい体験をし、充実した、学生生活を送ってください。  
(阿部 浩明)

四月になり、新しい学校、新しいクラスなど新しい生活に慣れましたか? 今年度の皆様のご活躍を期待しています。  
(浅岡 茜里)

進級おめでとうございませう。年度の初め、年間を通した目標を立てるのにいい時期です。いろいろなことにチャレンジしつつ、目標も意識していきましょう。  
(本多 隆範)

新たな学校や学年で生活が始まりそろそろ慣れてくる頃かと思えます。持っていた夢・目標を見失うことなく、これからの日々を自分のためになるように一緒に頑張ってください。  
(中村 瑠一郎)

入学おめでとうございませう。部活、勉強、目一杯楽しめる学校生活を送りましょう。第一志望校合格へ向けて突き進め!  
(森 清志)

春は全ての生命が輝きに充ちる季節です。不安や期待に寄り添えたならと願います。気軽に話しかけて下さい。  
(真鍋 真悟)

# ひとつつながりの輪

●受験を終えたみなさん、お疲れ様でした。毎回の宿題やテストに加え、副教材や過去問をひたむきに取り組み受験生の頑張りには頭が下がります。私が同じ歳だったときのことを思い出すと胸が痛くなります。

●私はちょうど中三のときに反抗期を迎え、受験勉強はまったくしていませんでした。両親は私がまったく勉強しないことでストレスがたまり、家族とは衝突する毎日でした。

●そんな私の唯一の理解者となってくれたのが母方の祖母でした。家でまったくご飯を食べない私は、お腹が空くと祖母の家に行くと祖母が作るご飯でお腹を満たしていました。本当に温かいご飯で、私はいつも泣きながら食べていたのを覚えています。

●そんな祖母が今年の一月に、危篤状態だと母から連絡がありました。私が帰ると祖母の体温は三十四度しかなく、私はずっと寝たままの祖母の冷たい手を握り、ただ泣くことしかできませんでした。私が帰ろうとした時、祖母は起き上がってきて私に言いました。「みんなに囲ま

れてばあちゃんに幸せだよ。だからまた同じ人生を歩みたい。そしたらまた孫で生まれてきてな。」と。その二日後、祖母は息を引き取りました。



●祖母の言葉を聞いて頭をよぎるのが、ニーチェというドイツの哲学者です。ニーチェは言います。「人生はひとつつながりの輪

である。もしたった一度でも心から生きていてよかったと思えるならば、そのとき人は人生の全てを肯定したことになる」と。辛かったことも、苦しかったことも、すべてはこのときのためにあったのだ、と今を肯定できる瞬間。その瞬間のために全て戻ってこい、と。またこうも言います。「未来永劫、永遠に全く同じ人生を繰り返す。一刻一秒違わず、まったく同じ順序で。」それでも自分の人生を肯定できるか？ニーチェはそう問うのです。



●あとから聞いたのですが、私が生まれる前に祖母は二度も自殺未遂をし、三十年以上も投薬生活で、介護をしていた母にだけは「苦しい」と毎日のように訴えていたそうです。その同じ苦しみ味わっても今ある幸せを感じることができたら、祖母はまた同じ人生を歩みたい、と言うのです。ニーチェの言うように、祖母は人生の全てを肯定したのです。

●人生という大げさですが、ニーチェの言葉を受験生の一年と置き換えてみてほしいでしょう。「この合格の喜びがあるのは、辛い受験勉強の日々があったからだ」と辛い過去を肯定できる瞬間。その瞬間は私たち講師にとっても最も嬉しい瞬間でもあります。その瞬間に向かって今年度も受験生と共に辛い日々を乗り越えていく覚悟です。

●受験勉強をまったくしなかった私も無事に志望校に合格できたのですが、喜びはあまり感じられませんでした。喜びと苦しみは「ひとつつながりの輪」なのですね。

(櫻村)

# 勉強は「部活」である

●創学舎に通う高校生は、かなりの人が何らかの部活をしている。一般の塾、予備校よりもその割合は高いようである。また、中学生は、九割近くが部活をしている。勿論参加していない生徒は、それぞれに事情があり、また学校とは別の場所で何かの習い事をしている場合も多く、「部活に入っていないからどうこう」というつもりはない。あくまでも個人の問題である。ただ、ここで「部活」を取り上げたのは、ほとんどの人が自分の意志で選択し一定期間活動した経験を持っていると思われるからである。そして、タイトル通り、勉強と結び付けて話し易いからである。



●テニス部に属する人は、サーブひとつとっても、毎日何十本か打つのだろう。二年半もやれば、万を超えるのでは？ 野球部は、例えば、キャッチボールだけでも、どれくらいやるのだろうか？ 吹奏楽部の人は、同じ曲を何回練習するのだろうか？ みんな「もつと速く、もつと正確に、もつと上手く、もつと強く……」と思つて、毎日毎日、同じことを繰り返しているはずだ。一日では変わらない。毎日毎日(スランプの時期も経て)、少しずつ少しずつ進歩していくものだ。(部活以外の習い事も含めて)、そういう経験をしていることを、私は素晴らしいと思う。

●さて、そういう部活に頑張るキミ達が、こと勉強となるとどうだろうか？ 一気にトーン・ダウンする。部活だと、同じ作業

を繰り返し繰り返しやった人が、上達するためにあんなに真剣だった人が、別人のような雑で淡泊な取り組み方になる。実は、勉強も部活と同じで、反復や真剣さや工夫が必要な行為なのに。

●勿論、一般的には、部活のほうが楽しい。自分が好きなものを選べる。そして、身体でその場で直接に快さを味わうことが可能だ。一方、勉強は、選択の幅はほとんどない。快さは、身体で感じるのではなく、脳の中で味わうしかない。それも、部活の快さとは全く質の違うもので、すぐには得られない。ましてや、嫌いな科目であれば、快さを味わえるかどうか疑わしい。つまり、勉強とは「半ば強制された、選択の幅が狭い、快さにつながるか分からない、インテリジェント部活」なのである。

●週に一回、スポーツをするのは、健康にいい。しかし、レギュラーを目指す人や勝利を目指す人の考え方はない。同じように、週に一回、数学なり英語なり勉強するのは頭の体操になる。しかし、成績を上げて志望校合格を目指す人の考え方はない。残念ながら、受験生の中には、頭の体操レベルの勉強をして、大学に合格出来ると錯覚している人がいる。頭の体操レベルの勉強しかしていないくせに、成績が伸びないと悩む人がいる。また、保護者の中にも、自分の子供が頭の体操レベルの勉強しかしていないのが分からず、一方的に苦情を述べるだけの方もいらっしゃる。

(小林(健))

### ▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。